

2025年度 学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時

2026年6月22日（月）13:00～15:00

2. 開催場所

日産愛媛自動車大学校 会議室

3. 出席者

◇評価委員

- ①自動車関係団体
- 黒河 秀樹（愛媛県自動車整備振興会 専務理事）
- ②関係企業代表
- 田村 宏（愛媛日産自動車株式会社 サービス課 課長）
- ③学校業界団体代表
- 越智 洋祐（松山聖陵高等学校 自動車工学科 科長）
- ④卒業生代表
- 岡田 陽一（カーポイント 代表）

◇学校職員

- ①管理者
- 岡 豊（校長）
- ②教育部
- 高橋 潔（教育部長）、西浦進一（一級自動車工学科課長）、見谷哲（自動車整備科課長）
- ③学生支援課
- 高須賀 啓志（課長）
- ④事務局
- 大政 浩行（事務長/校長代行）

4. 議題

- （１）校長挨拶
- （２）出席者紹介
- （３）2025年度活動報告及び意見交換

5. 議事録

- （１）総評
- 2025年度の活動報告及びに対し、理解を得、報告書を承認いただいた。
- 各委員から忌憚のない意見をいただき、これをもとに課題に取り組んでいく。
- （２）項目別の評価における主な課題、主な意見、意見に対する学校受取

基準１ 教育理念・目的・育成人材像等	
主な課題	留学生の確保及び管理について。入学判定時の慎重な対応が必要である。
主な意見	外国人材に対する法順守強化の流れは、入学生獲得に影響を及ぼすのではと心配している。（田村）
意見に対する 学校受取	在留資格変更担当者2名を選任し、必要な講習を受講するなど、適切な対応体制を確立している。 資格外活動(アルバイト上限時間の厳守)の管理、生活管理、納税管理などを通して、法令順守に努めている。 適切な留学生管理により、「適正校クラス１」に認定を受けることで、直接留学が円滑に進んでいる。
基準２ 学校運営	
主な課題	コンプライアンス体制整備は整っているが、学生への啓蒙・指導に苦慮している。
主な意見	①自動車好きが誤った行動につながらないことを心配している（岡田） ②SNSの取扱は適切に行われているのか？誤った行動が学校評価に響くのが心配である（黒河）
意見に対する 学校受取	①不正改造防止月間での一斉展開のみならず、法令授業や車検実習での具体的説明による正しい認識を教育している。一方で通学用バイクの改造に対する認識が低いなど、学外での行動が心配なところではある。 ②不適切な投稿などを監視するとともに、学生からの情報提供に目を光らせている。情報リテラシー教育を行い、誤った行動が大きな影響を及ぼすことを毎年展開している。一方で、SNS活用に積極的な留学生が増えるにしたいが、誤った活用傾向にあるため、その教育に苦慮している。
基準３ 教育活動	
主な課題	法改正に伴う国家試験制度変更による影響 急速に進む電動化・知能化に伴う教育カリキュラム策定 教員育成
主な意見	①新国家試験制度による授業への影響や国家試験結果への影響が心配（越智） ②毎年のように投入される新技術への対応は、整備現場でも苦慮している。授業への対応は進んでいるのか？また、それらによって、受講する内容が多くなっていると思うが、学生は対応できているのか？（田村） ③教員育成についてその方法や進捗、今後の採用計画について説明いただきたい（越智）

意見に対する 学校受取	①2級課程：教科書変更については、日産校5校での優先課題として連携対応し、授業運営に反映させることができた。定期試験結果を見るに習熟度への影響はなく、初めての国家試験受験を待つところである。過去問題が存在しないため不安も伴うが、今までの経験をもとに全員合格を目指す。1級課程：先日、教科書がやっと出来上がった。目を通すに今までの構成とは異なる部分もあり、効果的な対策が必要である。2級と同様に日産校5校での連携対応が始まるところである。27年4月の教育開始に向け準備を進める。 ②日産自動車のサポートにより最新車両の提供を受けるとともに、愛媛日産からの技術支援を得るなど、最新技術の習得環境を確保している。一方で、新技術の教育がすすむにつれ、教科書の記述から基礎的な領域が減るなど、基礎教育時間を減らさざるを得ない。真の理解が進んでいるのかが心配である。 ③高年齢化が進む教育部であるが、その指導経験や能力は現状の好成績の源である。定年退職による減数を見込んで計画的に採用を行っている。4月に1名が愛媛日産からの研修を終えて教育の場に立った。3年生に受験希望者が1名。今後も計画的な採用を行う。あわせて愛媛日産からの出向も定期的に受入れることで、キャリア教育の一翼を担っている。
基準 4 教育成果	
主な課題	多様化する学生構成に対する在籍率確保 卒業生評価による教育活動の改善
主な意見	①外国人比率の上昇や特徴的な学生の受け入れが先生方の負担になっていることは承知しているが、高い在籍率を得る理由は？（越智） ②卒業生の評価が今年は向上している。どのような取り組みをしているのか？（田村）
意見に対する 学校受取	①外国人については、日本での生活・就業を前提とした生活指導を第一と考え、教育部・学生支援課・事務局が連携して指導している。特に、在留資格の確実な取得のために法令順守や納税義務を正しく理解させ実践している。ミャンマー人教員の配置の効果も大きい。特徴的な学生対応については、非常に苦慮している。今後も大きな継続課題である。高い在籍率は、退学率の高い1年部に適任者を配置し、効果を得ている。いずれにしろ、在籍率の低下は募集活動に大きな影響を及ぼすため、優先度の高い課題としている。 ②コロナ禍の特殊な履修経験世代が終わり、あるべき教育体制に落ち着いてきた。評価を受けての改善活動も功を奏している。
基準 5 学生支援	
主な課題	メンタルサポート体制が整っていない 課外活動が活発ではない
主な意見	特になし
意見に対する 学校受取	-
基準 6 教育環境	
主な課題	開校50年を迎え、施設の老朽化が最大の懸念
主な意見	校舎の建て替えなど、再開発の計画は？（黒河）
意見に対する 学校受取	学校継続の可否も含め、再開発を検討している。資金調達が大きな壁。
基準 7 学生の募集と受け入れ	
主な課題	継続的な学生確保
主な意見	2025年、2026年と定員充足する募集結果を残している。また、日本人比率も高い。車離れ、少子化の中、どのような活動を行っているのか？（越智）
意見に対する 学校受取	学生支援室のきめ細かな対応と活動の成果である。また、オープンキャンパス参加者の応募率は70％と他校にない結果を得ている。教育部や事務局とも連動した、ニーズ把握から高い満足度を得る運営を行っている。留学生については、採用に苦労している地方の販売会社による企業奨学金制度を活用したミャンマー国からの直接留学が軌道に乗るなど、優秀な人材確保が進んでいる。
基準 8 財務	
主な課題	中長期的な財務安定化
主な意見	車離れ、少子化の中、安定的な経営について、どのような計画であるか？（岡田）
意見に対する 学校受取	厳しい環境下の中、収支バランスの取れる入学生の確保ができていることは、前述のとおり。10年後の18歳人口が10%減となるため、外国人材の獲得などの方策検討で対応すべく計画中。小規模校でもあり、日本人の落ち込みを効果的な募集活動で一定数カバーできるとみている。
基準 9 法令等の遵守	
主な課題	適切な対策と実行がなされている
主な意見	特になし
意見に対する 学校受取	=
基準10 社会貢献	
主な課題	ボランティア活動や地域とのつながりが薄い
主な意見	特になし
意見に対する 学校受取	愛媛県専修学校各種学校連合会との連携や職員参加など、学生がチャレンジしやすい環境整備を進めている